

(抜粋)

# 一般研究発表の概要

## 環境福祉学会 第5回年次大会

環境福祉学会第5回年次大会 一般研究発表  
(会場: ホテルケイエスピー、敬称略)

■第1分科会: 709号室 (7F)		
発表者	所属	演題名
1 堀 圭一	久留米大学大学院	福祉施設における太陽光発電導入に関する考察 ～福岡県久留米市における環境税に対する意識調査から～
2 平山 葉子	東海大学	コミュニティバスの環境福祉効果と普及の課題 ～秦野市のケースを中心に～
3 中村 寛樹	財団法人日本生産性本部 エネルギー環境部	環境福祉を統合した持続可能な社会づくりに関する研究 ～顕在化する地域環境問題と持続可能な社会論～
4 萩原 元昭	創造学園大学	EDSにおける2つの事例 ～おとなこどもの地域参画の可能性を探る
5 日山 欣也	佐川急便株式会社	高尾「100年の森」プロジェクト～企業が創る森～
6 伊澤 敏彦		環境問題を科学するために

  

■第2分科会: 701号室 (7F)		
発表者	所属	演題名
1 篠塚 恭一	NPO 法人日本トラベル ヘルパー協会	「介護旅行」にみる超高齢者の行動欲求～都市高齢者と地域の健康資源を結ぶ「トラベルヘルパー」の役割～
2 福島 音	大東文化大学	街中の設備を利用した転倒予防
3 副田 二三夫	熊本大学	マウスの排尿活動に対する環境要因の影響
4 山崎 宏	日本ブレインヘルズ協会	アートセラピーの一環としての「ぬり絵セラピー」: 考察と実践
5 小申 重治	名古屋産業大学	視覚障害者による国土環境モニタリング調査実現の可能性 ～鳥取県大山地域における社会福祉・環境保全の統合に むけた事例報告～
6 安川 緑	金沢大学	GardeNursing (ガーデナーシング) ～園芸を機軸とした看護学の構想

  

■第3分科会: 708号室 (7F)		
発表者	所属	演題名
1 相田 啓太	東海大学	割り箸から考える林業の活性化と環境福祉
2 石谷 有里	特定非営利法人 みどりの家	福祉発 異業種コーディネートによる新サービス・雇用・職場づく
3 永井 伸一	獨協中・高	吸水紐を用いた植物の簡易栽培法3 高齢者への癒し効果の検討
4 安原 稔	南国興産	吸水紐を用いた植物の簡易栽培法4 初心者による自動給水での栽培
5 中村 豊子	環境リスク研究会	食のリスクを考える
6 桜井 勝	国土館大学	次亜塩素酸水による福祉施設での新型インフルエンザ防除策 について考察する。

### 大会テーマに沿って

福祉発異業種コーディネートによる新サービス・雇用・職場づくり

石谷有里氏

(特定非営利活動法人  
みどりの家)

障害者の就労支援・生活支援に携わる福祉現場から、事業をハイブリット化し、さらにそれぞれをつなぐハイブリットネットワーク化し、今までになかった新サービスづくり、仕事づくりの取り組み状況を報告する。

企業との連携を図る際には、まず企業ニーズをヒアリングして、福祉側から企画を提案し、分か

ち合えるものを掘り起すことから始まる。企業との連携によって生まれた事業所の具体例としては、福祉事業所については商業施設、ボランティア任意団体の連携によって、障害福祉サービス事業を手掛けるなどの家の算所、日永などの取り組みが代表的なものだ。

また容器メーカー、ス

パー、障害者小規模作業所の連携としては、みどりの家の河原田リサイクルセンターで、障害福祉サービス事業(就労移行支援)を手掛ける。具体的には、プラスチック製容器包装ごみのリサイクルを進めている。

雇用事業所としては、リサイクル企業、個人有志らによるオレンジ環境プランニング(重度障害者雇用事業所)がある。古紙等選別作業などに取り組む。

その他の新規雇用事例としては、当施設から施設外授産を経て、製パン事業所への就職や、商業施設内の清掃事業、ショッピングカート回収事

業、宅配仕分け作業、スパー・廃棄物処理企業作業などが挙げられる。福祉施設での就労は、安心して働ける半面、授産事業の収入の増減によって工賃が増減するなどの問題がある。一方で企業での雇用では、労働基準法のもとの身分が保障されるが、障害者への手厚い支援は期待しにくい。

こうしたそれぞれの無理・無駄を協働により、互いに発展し合っていく。そのためには、今までにないサービスを協働により創出する必要があり。

例えば、ネットワーク化されたごみの資源化で

日本企業が打ち出した「2020年までに全国の公立小中学校へ太陽光発電を導入」という目標を基に、自然エネルギー導入の拡大策について考察する。

環境税を必要としている福祉施設は、環境税の導入による環境改善の効果が期待されている。福岡県民・学生1にアンケートした。

堀圭一氏

(久留米大学大学院)

環境税を必要としている福祉施設は、環境税の導入による環境改善の効果が期待されている。福岡県民・学生1にアンケートした。

名古屋

鳥取県奥山として展開している視覚障害者による環境保全

## 江東区がスチロロールごみ再生



地球船クラブ

細野照夫理事に聞く

東京都江東区は来年度から、環境問題に積極的に取り組むNPO法人「地球船クラブ」(東京都文京区)と協働して、家庭から排出される発泡スチロールごみの回収・リサイクルに着手する。ペレットはヨコタ東北に売却するビジネスモデルで、作業員には障害者を採用して福祉対策の一環とする考えだ。同法人の細野照夫理事に、考え方や今後の展望などを聞いた。

(堀内義之)

## 障害者雇用により福祉政策にも貢献

ヨコタ東北に再生材を売却

「今回の取り組みの狙いは、障害者の雇用促進とリサイクル推進という環境と福祉の両立」を行政と連携して進めていくことだ。しかも、それが地域の市民や事業者、行政など、域内で完結する地産地消型でできるというところに、大きな意義があると考えている。また東京で手掛けることで、情報発信の力も大きなものになると思う。

取り組み行政にも感じたい。行政との関係のつながり、調査の進め方、障害者と健常者の連携、1.3キロメートルの学習散策路、出発前に野

